

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700030		
法人名	医療法人誠晴會		
事業所名	グループホームふるさとの森		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字太良糸岐6851-3		
自己評価作成日	令和5年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和5年12月14日	外部評価確定日	令和6年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな多良山系に位置し麓には有明海を望む緑に囲まれたグループホームです。施設の畑では四季折々の作物が収穫できます。収穫した作物は食事に提供し、時には入居者様と協力して調理を行います。またコロナ禍を除けばカラオケや美容室への外出等、本人様の希望に合わせた楽しみ作りへの支援にも力を入れています。併設の老人保健施設より各専門職による医療面と機能維持へのサポートが受けられる体制も整えてあります。職員は利用者様の思いや感情を大切に、個性に合わせたサービスを提供できるよう、一緒に歩む心でその時々に応じて最適な支援方法を模索し、向上心を持って試行錯誤を重ねています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>見渡す限りの大自然の中の広い敷地に介護老人保健施設があり、並んでグループホームが2棟ある。高台で景観も素晴らしく空気も良く騒音の無い環境の中で職員は利用者の思いに寄り添い「笑い」のある楽しい日々の暮らしを支えている。入居者は「ここに居る事が幸せ」と言われ職員は嬉しくやりがいや励みになっている。介護老人保健施設は在宅復帰を目指しているが、家に戻れない人も多く、家に代わる場所の必要性から5月にグループホーム2号館が増設された。利用者の要望や意見を聞き入れ、季節毎のイベントや外出に工夫した暮らしを出来る限り実施され楽しみなものになっている。管理者は教育熱心で職員に分かり易く、納得するまでその人に合った指導をされている。男性3名を含む職員同士のコミュニケーションが良く、働き易い環境となっている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enter) されている。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開設当時に職員で話し合い設定。折に触れて会議でも課題にしながら確認し、意識の共有に努めている。開設時より変更は無いが、ケアの根拠としている。	職員と共に独自の理念を作成しており、今のところ変更はない。玄関、スタッフステーションに掲げられ、ケア会議等で共有されている。グループでチャットを利用し常に基本とし意識されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2～3回は地域の行事に参加したり、趣味サークルからの慰問を受けている。コロナ感染状況により実施を控えることもあるが、月1回の病院定期受診等では、相談が気楽に出来るよう情報の提供などで主治医との関係性への支援や地域住民との触れ合いを支援している。	法人本部が自治会に加入し回覧板で地域情報は得られている。以前は缶拾いや草刈りに参加した。ボランティアの歌のサークル、老人クラブの踊り、町内の文化祭に出展の作品を見に行く。傾聴の訪問は維持して行きたい。事業所を知らない方も多いので機会見て交流して行きたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域に出掛ける事は出来ていないが、運営推進会議の中での発信は心掛けている。また、家族様の面会時などに積極的に聴き取りをするなど、いつでも相談できる環境を心掛けている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの現状報告を行い、質問や率直な意見を頂いている。コロナ感染状況による中止や、報告のみの短時間で終了する事もあったが、意見からのサービス向上や取り組みに活かしている	家族代表、地区の委員、行政の出席等で2ヶ月に1回行われている。それぞれの立場から多くの意見があり事業所から丁寧に説明され、アドバイスを頂き検討し改善している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携は月に1～3回、訪問や電話にて行っている。	行政からは感染について、増加している結核の研修を受講している。又、待機者の管理、空き情報は地域包括支援センターへ、法令、報酬については介護保険事務所に相談されており、常に情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に2回の事業所内の研修のほかに、外部での研修にも定期的に参加し、身体拘束についての理解を深めている。言葉での身体拘束もある事を理解し、日常のケアに潜むリスクについても理解を深め実践している。	身体拘束のマニュアルに沿って毎月研修が行われている。チャットを利用し問題解決し結果報告書を提出している。職員は言葉遣いでの拘束にもならないように気をつけている。苦情相談窓口がある事は入居時に家族にも説明されている。玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の事業所内の研修のほかに、外部での研修にも定期的に参加し、虐待についての理解を深める。また、新しい情報の収集にも努めている。虐待と身体拘束は繋がっている事も理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は定期的研修を受けるが、職員については名称を知っている程度であり、現在学ぶ機会を設けていない。必要に応じて勉強会などを実施する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かり易い言葉での説明を心掛け、形だけとにならないよう配慮している。特に家族も高齢である場合は、説明の内容に誤解が無いよう丁寧に説明を行う。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けておらず、意見の反映方法としては意見箱の設置を行っている。また、毎月お便りを送付し、面会時には話しやすい環境作りに配慮し、希望を聴き出せるよう努めるなど、迅速に返答できるよう努めている。	意見箱を設置しているが今のところ利用はない。面会時や受診の際に意見等を聞いている。利用者の家族が遠方の方が多く電話で連絡を取り合っている。毎月の日々の活動の写真や様子と近況報告を配布し家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の人事考査で個別面接を実施している。	法人内での異動があるが、職員は自由に意見を言っている。勤務時間、人員体制や夜勤手当等について意見が出る。管理者は本部に報告し改善されている。育児休業、介護休暇も取り易く職員同士支え合い、コミュニケーションも良く働き易くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験、資格取得などを給与に反映させるシステムが整えられている。希望に沿った労働時間の選択も可能。育児休暇や介護休暇の取得も整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適材適所で事業所内でのローテーション、スキルアップに向けての研修やコーチング、年2回の面談での聴き取りなどが実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流会や事業所視察の取り組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様への聴き取りを重視し、不安や悩み、ニーズの把握を図る。家族様からの聞き取りも併せて必要な支援を見極め、適切なサービスを提供できるように努めている。話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族様の苦勞を労わると同時にこれからの生活に抱いている不安も話しやすい雰囲気づくりに努め、家族様も安心して前向きな気持ちを抱けるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様への聴き取りと生活状況などから本人様にとって必要と思われる支援を提案しながら、個性に合ったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「職員は介助する立場」と「利用者は介助される立場」の概念を無くすよう、定期的にケアの振り返りを行っている。敬意のある生活で良い関係性に努める。「痒い時、搔いてと言える間柄」を目指す。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月1回写真とお便りを送付し、遠方にお住まいのご家族にも、ホームの日常生活を身近に感じて頂くことで関係性が保てるよう努力している。「預けているから」という遠慮を与えてしまわないよう日頃の生活の伝達に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を徹底し、病院受診時は主治医や住民との会話がある。ご家族様や知人の方との面会も支援を継続している。	面会は多い。現在コロナ感染の為玄関で15分程度の面会が出来ている。携帯電話持参の利用者は自由に会話されている。電話の取次ぎにも応じられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介を行い入居者間のコミュニケーションがスムーズにできるよう努めている。また、お互いの持病や障害について相互理解できるように、分かりやすい説明に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時候の挨拶に一言添える等、退所後も関係が継続していると伝え、相談しやすい環境と関係の維持に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の言葉に出来ない思いを、言葉の中や表情から汲み取れるよう努める。聞き取りが難しい方には家族様の話や生活歴などの情報から意向を汲み取っている。また、日頃の生活状況からも意向が変化する事も含め、柔軟な汲み取りに努める	担当者は入居者がソファや椅子でゆっくりした時間に思いなどを聞いている。日頃の会話の中でのつぶやきや表情、行動で思いを知る事もある。「～を食べたい」「～へ行きたい」等の思いや感情を大切にしている。聞こえづらい方には傍により軽く手に触れ合図を出し向き合い、目線を合わせ、マスクをはずして口の動きや表情で理解される事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様との雑談からも情報を得られるよう普段の会話にも工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のペースを優先し、支援の無理強いはしない。また、過介助とならないよう本人様の生活機能を把握すると共に、体調の変化も含め職員間の情報の共有とケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスを実施する他、申し送り時にも気づきの共有を行っている。また、担当者会議や面談時のご本人やご家族からの意見、受診時の主治医からのコメントも介護計画に反映している。	担当者は利用者の日々の様子や体力や、気力の変化を申し送りノートに記載し参考にし、家族と話し合い、利用者の現状に合った介護計画を作成されている。期間内での変化の際には利用者の思いに沿って見直し、家族に報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録の他、職員の気づきを申し送りし情報共有を行っている。集まった情報はカンファレンスを通して介護計画に反映する場合もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア理念に掲げるチャレンジ精神と自由な発想の基、固定観念に捉われず試行錯誤しながら支援を行っている。事業所の感染対策レベルに応じて可能な限り好まれるドライブ等の外出支援を実施できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染状況により、地域のイベントに出かけたり、地元グループの慰問を受け入れる等控える時もあるが利用者様で協力し合い作品をつくり太良町の文化祭に出品、希望者で見学に出かけるなど生活の充実を図る。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診の他、定期以外の受診や他の病院を受診希望される場合も希望に沿うよう支援している。かかりつけ医とは受診時に情報交換を行い本人からも話やすくするなど信頼関係の構築を図っている。	入居者、家族の希望の医療機関での受診である。受診は家族の協力であるが、状況に応じて職員が同行する時もある。夜間は介護老人保健施設の協力があり24時間体制で職員も家族も安心である。他科の受診も希望に沿っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師が職員として在職しており、日々の健康管理や変化に対する対応や処置など、相談できる環境であり迅速な対応も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問し、支援相談員と情報共有することで、早期退院に向けての体制づくりに努めている。家族や本人には居室の確保で安心して資料されるよう説明を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス計画の更新や体調の変化があった際などに、ホームでできる事について理解して頂けるよう説明している。重度化された場合は病院や適切な施設等との連携ができる状況であり、家族様の不安軽減に努めている。	入居時に重度化における指針の説明をし同意を得ている。看取りの経験はある。看取りの心得等講師を招いて研修もされている。途中で家族の思いの変化にも対応されている。看取りの際はエンゼルケアをして入居者のお見送りが行われる。訪問看護の協力もあり、職員体制も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、グループホーム交流会や老人保健施設での救命対応心肺蘇生法、AED取扱いの研修に参加しているが、全職員が参加できているわけではない。自施設内での自発的な訓練はまだ実施していないため、実践力には不安がある。緊急時の連携には不安が無いよう意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えた訓練は年に2回定期的に行っている。地震等その他の災害に関する訓練はできておらず、これからの課題である。また、地域との連携も実施出来ておらず今後の課題。	年2回夜間想定を兼ね消防署立会いのもと訓練が行われている。町内からは区長、また、利用者も参加する。問題点については確認し改善につなげている。地震対策も検討中である。避難場所は家族にも伝えられており、備蓄は法人本部に準備されている。	運営規定に「地域住民の参加が得られるよう連携に努める」とあるので、運営推進会議等で検討され、今後は訓練時における地域住民の参加を期待したい。
かかっているのうんえい					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声かけひとつにしても、其々の個性があり、同じ声かけではいけないことの重要性を職員全員が周知している。丁寧な言葉遣いの中にも方言を交えることで人格の尊重になることも理解している。馴れ合いの言動にならないよう、定期的な振り返りとお互いに注意し合える関係性に努める。	接遇の研修に参加され言葉遣いに気を付けられている。親しみのある方言も必要に応じて使い分け、利用者に分かり易く伝わっている。職員の気になる言葉や行動についてはその場で管理者がさりげない指導をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細な会話から本人の考えや要望を聞き取れるよう、リラックスして話して頂けるような環境作りに努めている。また、自己決定が困難な場合では、さりげなくきっかけを提案できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排せつ等、生活の流れを業務に合わせてしまわないよう無理強いはせずその時の気分にあった生活をして頂けるよう、毎朝の散歩なども支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を決定する事は困難でも、一緒に見てもらいながら支援している。女性ではアロママッサージやネイル、化粧なども気分に合わせて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューからどんな準備が必要か一緒に考える時間を持つ。事務的で無く、その日の気分に合わせてながら、下ごしらえや味付けや盛り付けを一緒に行う。嗜好による代替品の提供等も臨機応変に行う。片付けでは食器の拭き上げで、皆様の個性に合わせた声かけや準備等で気分良く取り組まれる環境に配慮している。2ヶ月に1回程度のイベント食や地域からの出前を楽しむ。	毎朝牛乳やヨーグルト、ヤクルト等いずれか好みのものを用意されている。メニューは法人全体で同じ物であり、事業所で調理されている。作り方は利用者にあった作りになっている。行事食、郷土食等利用者の希望を取り入れられ完食されている。利用者は気分や体調に合わせて出来る範囲で手伝いをされる。畑で収穫された野菜が食卓に並ぶ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事や水分の摂取量を把握・共有し、摂取量や本人様の希望に応じて食事量の調節や栄養補助食品の提供を行っている。特に、水分摂取量については定期的に情報交換を行い、ゼリー提供や食器の工夫で水分量の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、セッティング行うが日中は実施されない方もいる。しかし、就寝前は全員実施して頂き、義歯も洗浄剤使用で夜間預っている。会話の中で口臭や汚れの発見に努め、特に舌苔の発見に努め、本人様が納得されるよう丁寧に説明を行いながら保清に努めている。協力歯科医の往診も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声かけ、表情や行動からの声掛けにより、失敗予防や自力のパット交換を促せるよう努めている。また、排泄パターンを職員間で共有し、適時のさりげない声かけにて交換が習慣化されるよう取り組んでいる。	自立に向けた工夫として排泄パターンに合わせてさりげない声掛けをされている。自力の方もあり、パット交換も自分で出来るようになられた方もある。衣類の上げ下げの出来る方もあり、職員が身なりをそっと整えられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼らない自然な排便を目指し腹部マッサージや定時の水分補給を実施している。また、便秘と運動の関係について説明しながら軽体操や外気浴散歩にも取り組んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望を聞き取り、入浴日や入浴頻度へ反映している。入浴を好まれない方には理由を職員間で考え、適した声かけの仕方に努めている。部分浴や更衣の勧め、声かけの工夫などを行い、本人様が清潔保持に関心を持ち自発的に入浴して頂けるよう働きかけている。	週2回の入浴である。利用者の気分、体調や時間に合わせられている。リラックスして、ゆっくり話も出来40分程度の楽しい時間である。衣類の着脱の出来る方には見守りをされている。季節湯の対応や必要に応じて、足浴、清拭、シャワーも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、自由に過ごして頂いているが、昼寝は声かけし、ベッドでゆっくり休んで頂いている。意思表示が困難な方には、表情や座位姿勢等から状況を汲み取り、安静時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確実に把握、理解しているかはやや不安がある。しかし、その方にとって重要な薬については、管理者、看護師にて適時説明しており、変化の確認などもできている。内服支援では誤薬や飲みこぼしがないよう集中しておくことを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや食器拭き、洗濯物を干す・たたむ等の家事等、自分から進んで関わって頂けるような働きかけが大事であり、その時の気分や能力に合わせるのが難しい。「させられ感」が無いように配慮する。習字やお点前会など、得意な事を発揮できるよう努める。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外を眺められる、落ち着かれない、等の様子が見られた時は外気浴にお誘いしている。コロナ感染状況をみながら、カラオケ外出の他、不定期のドライブや地域行事への参加ができるよう外出支援している。飲食を伴わない家族との外出支援を行っている。	計画に関係なく季節や天候に合わせて出掛け季節を感じられている。外出は万全の体制で全員で出かけられる。正月、お盆に外泊される方もある。みかん畑を眺めながら、野菜作りを見学したり、事業所の周囲を散歩され日光浴、気分転換が出来楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様とご家族様の希望に応じて、事務所預かりの対応を行っている。必要時にはお渡しし、買い物等への使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話を希望される場合は職員が取り次ぎを行っている。希望者には携帯電話も所持していただき自由に家族や知人と連絡取ってもらっている。家族様へのお便りとして、年賀はがきと暑中見舞いの作成を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は昼夜清掃を行っている。また、施設周囲の草花を飾り季節を感じられるよう工夫している。その他、不快な音にならないよう食器の洗い方に注意し天候や時間帯に合わせてカーテンや空調の調節、窓の開閉等を行い、利用者様が居心地良く過ごせるよう努めている。	玄関には日光浴やお茶の時間も出来るように椅子が並べられている。中に入ると犬の置物やメダカの水槽があり利用者は餌を与えたり眺めて癒されている。傍の本箱には多くの本が並べられている。リビングはバリアフリーになっており障害物も無く、掃除も行き届いている。一角には畳の間にこたつがあり、休む方もある。南側はガラス窓になっており1歩外に出ると素晴らしい景観を見る事が出来る。美味しい食事の匂いも感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間をいつでも自由に使用できるよう整えている。他者様と会話する他、新聞や本を読んだり調べ物をする等、皆様思い思いに過ごされている。時には他者様の居室を訪問し、会話をr楽しめることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様とご家族様の希望を聞き取り、家具の配置に反映している。居室には慣れ親しんだ写真・本・植木等の私物を自由に置いて頂けるようにしている。	居室の入口には名前は無いが絵やレイを飾り目印になっている。掃除は職員が行っている。整理たんす、テーブル、ポータブルトイレは備え付けである。居室に多くの持込は無いが入居者が思い思いに部屋づくりをされ住み易く、便利で落ち着くように設定されている。テレビ、衣装ケース、写真、作品等が持ち込まれ整理整頓されている。臭いは感じられない。投棄の確認が出来るようにカレンダー式のものが作成され、分かり易い場所に掲げてある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内では本人様に自由に行動して頂いており、本も自由に読める状態で見守りを行っている。日めくり暦をめくって頂き日にちの確認ができ、歯磨き、トイレのパット入れ等、個人名を分かり易いよう印字し、配置なども工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない